

令和 6 年 5 月 10 日現在

機関番号：37111

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K12975

研究課題名（和文）現代英米小説におけるブルームズベリー・グループの遺産

研究課題名（英文）The Legacies of Bloomsbury Group in Modern British Novels

研究代表者

岩崎 雅之（Iwasaki, Masayuki）

福岡大学・人文学部・准教授

研究者番号：00706640

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 900,000円

研究成果の概要（和文）：モダニズム復興作品における重要な特徴として、作者本人とその作品が同性愛者である主人公の自己形成を促すという点がある。E. M. Forsterの場合、The InheritanceやAlecにおいて、彼は登場人物の一人であるMorganとして登場し、彼の著した Mauriceが作中で主人公たちの自己実現を助助する。同様の事例はVirginia Woolfの場合にも見られた。また、これらバイオフィクションでは、アメリカが理想の地として設定されていることも明らかになった。バイオフィクションは、旧来の家族像を問い直すものであり、それは同性間のパートナーシップに象徴される新たな人間関係の構築を図る。

研究成果の学術的意義や社会的意義

モダニズム期以来のおよそ100年にわたる英語圏文学において、翻案がどのように行われてきたのかということをも明らかにしたので、作品間のつながりを理解するための新たな視座を提案することができたと言える。また、昨今ひろく議論されている多様性というものが、これらの作品においてどのように表象されているのかも明らかにしたので、この成果が社会に還元されれば、さらに多くの社会的議論が生まれることを期待することができる。

研究成果の概要（英文）：As for important characteristics in modernist revival works, it has become apparent that the self-formation of protagonists who are themselves homosexual is fostered by the works of modernists. In the case of E. M. Forster, he appears in The Inheritance and Alec as one of the characters, Morgan, and his work Maurice assists in the self-realization of the protagonists within the narrative. Similar instances are also observed in the case of Virginia Woolf. Furthermore, in these biofictions, it has become evident that the U.S. is set as an ideal land. Biofiction questions traditional family images, aiming to construct new human relationships symbolized by partnerships between individuals of the same sex.

研究分野：英語圏文学

キーワード：E. M. フォースター ヴァージニア・ウルフ モダニズム ブルームズベリー・グループ バイオフィクション ポストモダニズム

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

本研究は、現代英米小説におけるモダニズムの遺産を明らかにするために、E. M. Forster と Virginia Woolf の作品、また両者が属していた前衛主義的芸術家集団ブルームズベリー・グループの生み出した芸術的および歴史的所産の諸相を、昨今のモダニズムの拡張主義的研究の観点、ならびにメタモダニズムという新規の概念から論じることを計画していた。先行研究は、モダニズムの作品と現代小説を個別に対応させながら論じる傾向があったが、ひろく見ると、モダニズムの復興運動は、先行するポストモダニズム作品に対する抵抗、あるいは対立命題としても理解することができるものであり、またその翻案においては、対象となる作家の人生の出来事や作品世界の構造を、グローバル化、より正確に言うならば「アメリカ化」する傾向が見られた。

2. 研究の目的

研究開始当初の背景を踏まえた上で、バイオフィクションとしてのモダニズム復興作品の実態解明を、モダニズムとポストモダニズム、またグローバリズムとポピュラーカルチャーの観点から研究することを目的とした。本研究では、Forster や Woolf、またブルームズベリー・グループの構成員のような、歴史上の人物の実人生と文芸作品などのナラティブを織り交ぜながら翻案する作品のことを、従来までの定義を拡大解釈してバイオフィクションと呼ぶこととし、その改作を通じたモダニズム再興の文学的意義の考察を図った。

3. 研究の方法

グローバリズムの時代におけるポピュラーカルチャーとモダニズムの影響関係を、バイオフィクションの観点から分析するアプローチを採用した。作品の読解においては、次の三点に注目した。1. (*Mrs Dalloway* を下敷きにした *The Hours* などにおいて) モダニストの実人生とその作品が、同性愛者である主人公の自己形成をどのように促しているか。2. (Woolf の姉である Vanessa Bell の半生を綴った *Vanessa and Her Sister* などにおいて) 社会規範を問い直すような夫婦愛、家族愛がどのようにして描かれているか。3. (リットン・ストレイチーとドーラ・キャリントンの交流を描いた *Carrington* などの映像作品において) ノスタルジックにかつての英国の姿を描く、ヘリテージ映画のような特徴が見られるか。また、20 世紀末からアメリカ合衆国において求められた、性的マイノリティの権利や生を称揚する多文化主義の影響をどう読み取ることができるか。

4. 研究成果

Woolf の *Mrs Dalloway* を基調作品とした Michael Cunningham 作 *The Hours* など、モダニズム復興作品における重要な特徴として、作者本人とその作品が同性愛者である主人公の自己形成を促すという点が挙げられる。Forster の *Howards End* を下敷きにした Matthew Lopez の劇作品 *The Inheritance* では、Forster は登場人物の一人である Morgan として登場し、彼の著した *Maurice* が作中で主人公たちの自己実現を介助する。また、William di Canzio の *Maurice* の翻案である *Alec* においても、Forster は Morgan として登場し、主人公の自己形成を導く役回りを演じている。

Woolf の場合であれ Forster の場合であれ、両者に共通して言えることは、作品というよりもそのセクシュアリティと実人生が注目を集め、グローバリズムの時代におけるポピュラーカルチャーによって新たな価値づけがなされているということである。もちろん、これまでも小説家を含めた特定人物の人生を主題とした伝記や歴史小説の類は存在していたが、*The Inheritance* や *Alec*、*The Hours* のように、作者本人が登場人物の一人として登場し、その人生と作品が物語の中核ないしその一部を成すという構成は 20 世紀末から顕著に見られるようになった現象である。

本研究では、Forster のような歴史上の人物の実人生と小説などのナラティブを織り交ぜながら翻案する作品のことを、従来までの定義を拡大解釈してバイオフィクションと呼ぶこととした。モダニストにまつわるバイオフィクションは、秘められた意識と性生活の叙述を主な対象とする。その意味では、文学評論家にして伝記作家であった同性愛者の Lytton Strachey と、彼と一時期恋愛関係にあったとされる画家の Dora Carrington の関係に注目した映画 *Carrington* など、同様の要素を有していると言える。また、趣はだいぶ異なるが、ヴィクトリア朝詩人 Elizabeth Barrett の飼犬を主人公とした、小説ともメタ伝記ともつかぬ奇妙な作品である Woolf の *Flush* という作品も、犬という語ら(られ)ぬ存在の視点を通じたバイオフィクション的ナラティブを有しているという点で、共通した部分があると言える。

バイオフィクションに見られるモダニズムの継承という観点から、Woolf を登場人物のひとりとして登場させている *The Hours* を精査してみると、本作の主題は、現代のアメリカ合衆国におけるセクシュアリティの批判的再構築であることが明らかになる。Cunningham の創作行為は、ひろく 21 世紀に端を発するモダニズム文学への回帰という現代の英米小説の趨勢を反映するものであり、それは先行するポストモダニズム作品に対する抵抗、あるいは対立命題の提出と

しても理解できるものであるが、その翻案におけるモダニストの実人生や作品世界の構造は、グローバル化、より正確に言うならば「アメリカ化」されている。実際、Woolf の執筆した *Mrs Dalloway* の世界は、20 世紀末のニューヨークに生きるひとびとのセクシュアリティを描く後景としても用いられている。

同様の現象は *The Inheritance* にも見られる。本作では、Forster が Morgan という人物として登場し、ニューヨークに生きる同性愛者たちに助言を授ける。William di Canzio の *Maurice* の書き直しである Alec においても、Forster は Morgan として登場し、主人公 Alec を導く人生の指南者としての役割を果たす。上述した作品と同じように、最終的に Alec の目指す地はニューヨークに設定されている。

本研究を遂行した結果、バイオフィクションにおける教養小説という文学形式を精査する必要が明らかになった。というのも、*Mrs Dalloway* にせよ、*Maurice* あるいは *Howards End* にせよ、これらモダニズム作品は、若年期あるいは中年期における、主要登場人物の自己形成を主題とした教養小説としての側面も有しているからである。たしかに Forster の場合、*Howards End* でこの形式は後景に追いやられてはいるが、ヴィクトリア朝期の教養小説である George Meredith の *The Ordeal of Richard Feverel* が作中に登場し、Leonard Bast という、Lopez の *The Inheritance* における Leo という人物（彼は *Maurice* を読んでいる）の原型が、Meredith の作品を読み、人格の陶冶を図っている。Forster の先行作品——*Where Angels Fear to Tread*、*The Longest Journey*、*A Room with a View*——を見ても明らかな通り、教養小説の形式はこの作家にとって重要な意味を持つ。*Howards End* と *The Inheritance* では、教養小説という形式と、作中で紹介される当該分野の作品の果たす作用が、若者に正反対の効用をもたらすが、21 世紀型バイオフィクションはモダニズム期における教養小説の残滓を再利用しながら、新たな家族像の構築を模索しているのかもしれない。

このように教養小説としてのバイオフィクションは、旧来の家族像を問い直すものであり、それは同性間のパートナーシップに象徴される新たな人間関係の構築を図るものである。従来まで敵対的關係として理解されてきた、「モダニズム対ポストモダニズム」という図式に代わる、新たな見取り図を前提とすることで、バイオフィクションの実態説明は一層進展することが予見される。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

| | |
|---|--------------------------|
| 1. 著者名 岩崎 雅之 | 4. 巻 38 |
| 2. 論文標題 On Beauty、あるいはハイパーリアルな Howards End における崇高、美、まなざし | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 ヴァージニア・ウルフ研究 | 6. 最初と最後の頁 pp. 98-113 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

| |
|--|
| 1. 発表者名 岩崎雅之 |
| 2. 発表標題 「偉大さ」の系譜 Howards End とOn Beauty |
| 3. 学会等名 日本ヴァージニア・ウルフ協会第40回全国大会 |
| 4. 発表年 2020年 |

〔図書〕 計1件

| | |
|---------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 ヴァージニア・ウルフ、岩崎雅之 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 幻戯書房 | 5. 総ページ数 259 |
| 3. 書名 フラッシューある犬の伝記 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

| 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|---------------------------|-----------------------|----|
|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|